

# 読書週間

「最後の頁を閉じた  
違う私があった」



10月27日～11月9日

終戦から2年後の1947（昭和22）年、まだ戦争の傷あとが日本中のあちこちに残っているとき、「読書の力によって、平和な文化国家を創ろう」と、出版社・取次会社・書店と図書館が力をあわせ、そして新聞や放送のマスコミも一緒になり、第1回「読書週間」が開かれました。

それから70年以上が過ぎ、「読書週間」は日本中に広がり、日本は世界のなかでも特に「本を読む国民」の国となりました。今年の「読書週間」が、みなさん一人ひとりに読書のすばらしさを知ってもらいきっかけとなることを願っています。



## ★マナーアップキャンペーン★（10月27日～11月9日）

図書館の本はみんなで使うものなので大切に扱いましょう。  
もし誤って破ってしまった場合は、自分で修理せずにそのまま返却してください。専用の道具を使って図書館で修理します。

### ～図書館の開館時間～

開館時間	日曜日～木曜日	10:00～18:00
	金曜日	10:00～20:00
	土曜日	10:00～19:00
休館日	毎月第1・3水曜日（祝日の場合は翌日） 年末年始（12月28日～1月4日）	

★11月24日（水）は文庫交換のため休館します★

大野城まどかぴあ図書館

第45号  
2021秋号

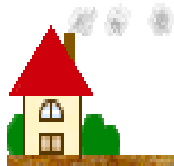
10代のための図書館情報誌

# わいわいばら

“読書の秋”を満喫しよう♪



まどかぴあ図書館には、10代の方に読んでもらいたい本を集めたYAコーナーがあります。



# おすすめの本



## 『これは王国のかぎ』

荻原 規子／著 (KADOKAWA) [YA/F/オギ]

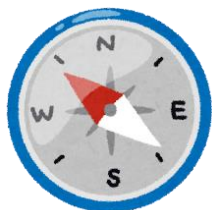
失恋した 15 歳の誕生日。ひろみは泣き疲れて眠り、目が覚めると目の前に見知らぬ男の子が立っていた。その人は「あなたはおれが壺から出した魔法族（ジン）だ。おれの命令をなんでもきくんだろ？」と言う。どうやらひろみは魔法が使えるらしいが、ジンの体や力を使うことにまったく慣れない。状況を理解できないまま彼と行動するうちに、国を左右する大きな出来事に巻き込まれていく。アラビアンナイトの世界に飛び込んだ少女の冒険ファンタジー。



## 『黄金の羅針盤』(上・下)

フィリップ・プルマン／著 (新潮社) [YA/933.7/プ]

お転婆な少女ライラは、〈ダスト〉と呼ばれる塵に関する不思議な実験が北極で行われていることを知る。それと同じ頃、子どもがさらわれる事件が立て続けに発生し、親友のロジャーまでも姿を消してしまった。真実を読み解くことができる黄金の真理計を手にも、ライラは二つの事件を追っていくが、それは自身の秘密にも大きく関わっていて…。『ダーク・マテリアルズ』シリーズ、最初の物語。



## トナリノセカイ



## 『野原できみとピクニック』

濱野 京子／著 (偕成社) [YA/ハマ]

裕福な家庭で進学校に通う優弥と、底辺の学校に通い、家庭のためにアルバイトに励む稀星。全く環境の異なる二人だったが、困っている優弥を稀星が助けたことから、お互いが気になりだしていく。ある日、二人は高校の友人を誘って交流会を計画した。しかし、順調に準備を進める中、思わぬ事態が起きてしまい…。お互いの価値観のずれを感じながらも少しずつ前へ進んでいく淡い恋のお話。



## 『妖怪がやってくる』

佐々木 高弘／著 (岩波書店) [YA/388/サ]

妖怪がどうして現れるのか疑問に思ったことはありませんか？この本では、昔の記録や物語に書かれた妖怪がどんな場所に登場したのか、また、時代とともにどのように変わってきたのかを探りながら、妖怪とは何かについて考えていきます。例えば、荒々しくて気味が悪いと恐れられていた鬼たちが、中世の頃になると個性を持ったキャラクターとして認識されていくのはどうしてでしょう。妖怪が持つ魅力を探ってみませんか。



# わいわいばらら

2021 年秋

読書の秋スペシャル！



読書の秋ということで、初のスペシャル版を発行！  
市内各中学校の図書室の先生に、オススメの本を  
聞きました。気になる本はぜひ、手に取ってみよう♪

## 『犬がいた季節』

伊吹 有喜／著（双葉社）

高校に迷い込んだ犬の「コーシロー」と生徒の  
1988年から2000年の12年間とその後の物  
語。昭和、平成、令和の時代背景を交えながら、  
コーシローの視点からも描かれています。進路の  
悩み、友人関係、恋愛…いつの時代も同じだと思  
えます。最終話、感動で涙しました。素敵な心温  
まるストーリーです！  
(平野中学校)



## 『吾輩も猫である』

赤川 次郎・新井 素子・他／著（新潮社）

漱石没後100年&生誕150年記念出版。猫好  
きの作家による短編8作です。猫の目線で描かれ  
た話は、ミステリアスだったり、ロマンチック  
だったり、人間的だったり、それぞれの作家の個  
性があふれていて楽しめます。サラリと読める  
猫アンソロジー。  
(大野東中学校)



『アーモンド』 ソン・ウォンピョン／著

(祥伝社)



頭の中にある扁桃腺（アーモンド）が小さく、喜  
怒哀楽をほとんど感じることも表現することもで  
きない少年。もう一人は激しく感情を表に出す不  
良少年。そんなふたりが出会い、関わって成長し  
ていく物語。愛と共感について深く考えさせられ  
る一冊です。  
(御陵中学校)

『種をまく人』 ポール・フライシュマン／著

(あすなろ書房)



亡き父への想いから、ベトナム人の少女が荒廃し  
た土地に小さな種を植えます。その行動がきっか  
けで、人々が人種や年齢・言葉の壁を越えて畑に  
水を運び野菜を植え、やがてコミュニティが生ま  
れます。この作品にはお互いを理解すること、  
思いやることの大切さがつまっています。

(大和中学校)

『はずれ者が進化をつくる』

生き物をめぐる個性の秘密』

稲垣 栄洋／著（筑摩書房）



ジャンルは自然科学の新書です。生物が進化するう  
えで、個性が武器・強みだったというテーマですが、  
読んでいくうちに、私たち人間にも同じことが言え  
るという展開になっていきます。思わずうるっと涙  
ぐみそうになってしまう、実は生き方の本だったと  
気づく作品です。  
(大野中学校)

図書室は、たくさん本を準備してみなさんを待っています。  
まだかぴあ図書館はもちろん、自分の中学校の図書室も  
ぜひのぞいてみてください。

